

明石工業高等専門学校図書館

# 図書館報

第50号 平成27年1月

## 目次

巻頭言	(1)
自著紹介	(3)
私と読書	(4)
購入希望図書案内	(6)
読書感想文コンクール	(7)
ブックハンティング	(12)
推薦図書	(13)
利用統計	(14)
利用案内	(15)
海外の図書館	(16)

## 「この国のかたち」 司馬遼太郎著

京 兼 純

8月の全校集会で話をしましたように、インドネシアの電子工学ポリテクニック校（EEPIS）とガジャマダ大学から7月中旬に短期留学生6名が来校し、機械工学科や電気情報工学科および川崎重工（株）で研修を行い無事に帰国しました。10月にはディポネゴロ大学（ディポネゴロは植民地時代に旧オランダ軍と戦った英雄の名前です）から建築学科へ3名の学生が来る予定です。EEPISは25年前に日本政府開発援助（ODA）資金で、全国の高専が支援協力してできた学校です。現在、本EEPIS校はインドネシアで1～2位を争う学校となっています。7月17日はインドネシアの独立記念日で、私も総領事公邸で開催された式典に列席してきました。式典は日本に留学している皆さんと同年輩の学生を中心にして進められました。ポリテクニック校があるスラバヤ市は、インドネシア独立の蜂起地としても知られています。また明石高専へ多くの留学生がきているマレーシアの独立記念式典は、9月16日に東京のホテルで行われ出席しました。我が国は、植民地から解放された独立記念日はありませんが、忘れてはならないのは8月15日の終戦記念日ではないでしょうか。この敗戦の日、福田青年（司馬遼太郎氏の本名）は本土防衛のため栃木県佐野市に駐屯しておりました。敗戦の報をきいた福田青年は戦争で体験した、その時々さまざまな過酷な情景から「戦争」のもつ意味を23歳の自分に問いかけていくこととなります。そのことが司馬文学の原点であるともいわれています。

さて、皆さんもご承知のとおり明石高専は、51高専のなかから茨城高専とともにグローバル高専モデル校として選ばれました。グローバル化で必要とする資質は、よくいわれていますように「英語力、異文化理解、海外体験」があげられ、いわゆる三種の神器的なものとなっています。これらは身につけておくべき最低限必要なことですが、これだけで国際社会のなかで渡り合っていけるものでもありませんし、これからの世界はますます多様化し、予測困難で見えにくくなっており、また価値観もさまざまな形態で共存していくこととなります。このような状況下で私たちに求められるのは、自分自身が生まれた国の文化や歴史、自国のおかれている立場をよく理解しつつ独創的な視点で世界に立ち向かっていくことが大切ではないか……。つまりグロー

バル化の進展のなかで忘れてはならないことは、自国の文化や歴史などを深く理解し、しっかりとした軸足とアイデンティティを持って、対処していくことが必要ではないかということです。そうした観点から今回は、司馬遼太郎氏の「この国のかたち」を推薦書として選びました。

雑誌「文藝春秋」の巻頭随筆として始まった「この国のかたち」は、10年間続きましたが、平成8年（1996年）2月に司馬遼太郎氏の死によって未完のまま終わりました。しかしながら、深い洞察力と知が凝縮した全6巻からなる本書は、先で述べたように私たちが多種多様な世界へ歩を進め、対峙していくための源となり指針となり得るものと信じています。それからもう一つ。皆さんが小学校のときに教材として使用されたかも知れませんが、同じく司馬遼太郎氏の「二十一世紀に生きる君たちへ」も推薦書として加えたいと思います。

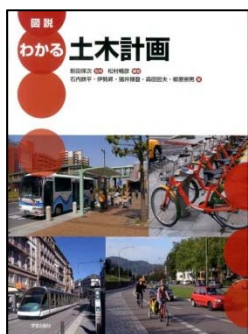
本校ではグローバル高専モデル校の構築にともなって、英語力や海外インターンシップなどを充実しつつ教育手法も改革する予定で準備を進めています。主な手法はアクティブラーニング（双方向学習）とICT等を活用した教育改善です。アクティブラーニングなどを行うには、皆さんが自ら考え、行動をすることが不可欠となります。そのためには図書館と情報センターが重要な役割を果たす場所となりますので、特に図書館では単なる自学自習のみにとどまらず、より深い勉学を志すように自分自身を変える努力をしてください。そして私は、情報メディアセンターが常に満杯となることを「夢」みて、巻頭言を終了とします。

（きょうかね じゅん 校長）



- 『この国のかたち』 司馬遼太郎著  
文藝春秋 1990年3月 他
- 一 ISBN : 4163441301  
請求記号 : 914.6.S-1 登録番号 : 089722
  - 二 ISBN : 4163446109  
請求記号 : 914.6.S-2 登録番号 : 089723
  - 三 ISBN : 4163464301  
請求記号 : 914.6.S-3 登録番号 : 089724
  - 四 ISBN : 416349040X  
請求記号 : 914.6.S-4 登録番号 : 089725
  - 五 ISBN : 4163513507  
請求記号 : 914.6.S-5 登録番号 : 089726
  - 六 ISBN : 4163519904  
請求記号 : 914.6.S-6 登録番号 : 090082

## 自著紹介



石内 鉄平

『図説 わかる土木計画』

新田保次・松村暢彦・石内鉄平他共著

学芸出版社 2013年12月

ISBN978-4-7615-3208-6

請求記号：513.1.D 登録番号：105112

土木で扱う道路や空港、公園といった社会基盤施設は多様な特性を持つため、計画を行う際には事前に多面的な検討が必要になります。これまでに出版された土木計画に関する教科書はその性格上大きく二つに分類され、一つ目は問題の明確化から事業評価までの一連のプロセスを体系的に捉えた計画論的な色彩が強いもの、二つ目はデータの分析や最適化、予測・評価に関する数的手法に重きを置いたものです。本書では、どちらかというところと後者に重きを置いており、書名「図説 わかる土木計画」が示すように社会基盤施設の計画について図を多用してわかりやすく記述することを心がけています。内容は、土木計画とはに始まり、データの整理と分析方法、実験計画と調査の方法、データを用いた推測・予測手法、計画の評価という順に構成されています。

本書が、高専学生や大学学部生、公務員試験に臨む学生の参考書として活用され、教育・社会の現場で役立つことを願っています。(いしうち てっぺい 都市システム工学科)

## 自著紹介



高田 功

『高専テキストシリーズ』6種類  
および問題集

高専の数学教材研究会[編]

森北出版 2011年10月 他

ISBN978-4-627-05511-7 他

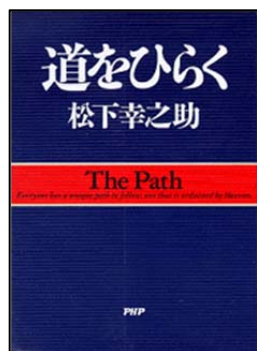
請求記号：410.0.K 登録番号：105118 他

全国の高専に勤めている数学の教員30人以上が手分けをして、高専の学生が使いやすく、また、高専の教員が教えやすい教科書を目指して、高専テキストシリーズ「基礎数学」「微分積分1」「微分積分2」「線形代数」「応用数学」「確率統計」の6種類の教科書およびそれらに付随した問題集を著しました。教科書も問題集も、各節で数人の教員が執筆し、その中でいい表現のものを選び、また、全体的に配置を並び替えることなどを編集委員が行いました。今までの教科書と違うところは、例えば、基礎数学の三角関数の章は、関数であることを理解してもらうことを優先しており、三角形への応用は後に回している点とか、微分積分では、逆三角関数も含めて微分法と積分法を微分積分1で著してしまい、微分積分2では、媒介変数表示の関数および極座標の関数の微分積分をまとめて著し、偏微分・重積分に繋げている点などです。問題集の[B],[C]問題には詳しい解答も付けました。

(たかた いさお 一般科目)

## 私 と 読 書

三好 崇夫



『道をひらく』  
松下幸之助 著  
PHP 研究所 1968年5月  
ISBN978-4569534077  
請求記号：159.0.M 登録番号：103544

2011年の東日本大震災、福島第一原子力発電所事故発生後の我が国は、多数の方が死傷されたことへの深い悲しみに包まれ、多くの国民が先の見えない不安に襲われたように思います。当時、私が足繁く通っていた大阪難波の大型書店には、本田技研工業の創業者・本田宗一郎氏と現パナソニックグループの創業者・松下幸之助氏の著書に関する特設コーナーが設けられていました。そこには、多くの苦難を乗り越えて世界的企業を築き上げるまでの両氏の回顧録やエッセイが陳列されていました。書店に特設コーナーが設けられたのは、それらの書物が未曾有の震災と事故で悲しみに暮れ、将来への不安を抱えた我々に困難から立ち上がり、前向きに生きる勇気を与えてくれるものであったからではないかと思えます。それらの書物のうちの一つである「道をひらく」は、1話が2頁程度で完結する松下氏の随想集であり、発刊から40年以上経過した現在に至っても読み継がれている名著です。特に、本書の「運命を切りひらくために」や「困難にぶつかったときに」は、何かに躓いたときに立ち直って再び前向きに生きていくための活力を与えてくれると思えます。

(みよし たかお 都市システム工学科)

### 図書館改修（1）

今年度の夏休み期間での改修により、新しく壁が出来、図書館の入口が変更になりました。また図書館カウンターも場所が変更になりました。

以前図書館内にあったトイレが入口の外になってしまいましたが、改修工事によりキレイになっています。

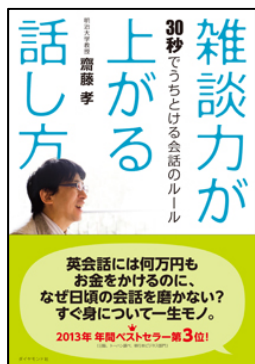


図書館入口自動扉



カウンター

## 私 と 読 書



井上 英俊

『雑談力が上がる話し方』  
齋藤 孝 著  
ダイヤモンド社 2010年4月  
ISBN 978-4478011317  
請求記号：809.4.S 登録番号：103736

ソフトテニス部顧問として引率する大会、特に高専体育大会の日程終了時には、ちょっとした空き時間ができる傾向にあります。その際に、隣のテントに他高専の学生が居合わせますので、『将来同じ職場になる人がいるかもしれないよ』と言って話しかけることを強く促すのですが、まず話しかけることができる学生はいませんので、もどかしい思いをすることがよくあります。

かたや普段の練習においては、『集合！』と号令がかかっているにもかかわらず、おしゃべりをやめない学生が散見されます。ですので、話しをすること自体は嫌いではない、ということは間違いないでしょう。しかしながら、上述の例の間にはあまりにも大きな差異が存在します。では、この差異をどのように埋めていけばよいのでしょうか。

この本の著者は、雑談とは人間関係やコミュニケーションを円滑にするためのものであり、雑談力は話術やトーク術ではなくて技術力であり、生きるための有効な力であると説いています。そして、ビジネスにおいても必ず求められる力となっているようです。著者によれば、ちょっとしたコツ等をつかむことができれば、雑談力は必ず身に付くとされています。皆さんも、この本に書かれているコツを実践してみたいかがでしょうか。

(いのうえ ひでとし 一般科目)

### 図書館改修（2）

昨年度、今まで AV ルームだった部屋が演習室(BIM/CALL)に変わったため、新しいモニターとブルーレイディスクプレーヤーを購入し、AV コーナーを設置しました。

また、今年度の改修により、視聴覚資料も窓側に移動しています。是非、新しい AV コーナーを利用して下さい。



AV コーナー（6台）



視聴覚資料

## 購入希望図書案内

図書館に備えてほしい資料があれば、MyLibrary 経由でお申し込みください。資料の種類は、図書、視聴覚資料などジャンルは問いません。以下の選書基準と予算に応じて、ご要望にお応えしています。MyLibrary へは、図書館ホームページよりアクセス出来ます。学生証の ID とパスワードが必要になります。パスワードの初期登録は図書館カウンターまで。

図書館ホームページ（ <http://www.akashi.ac.jp/library/> ） の下記○部分



平成 25 年度は購入希望により、151 件の図書等を購入しました。

## 学生希望図書の選書について

平成 25 年度第 1 回図書館委員会により、学生希望図書の明確な選書基準を設けました。

### 【選書基準】

- ・ 勉強及び研究で利用する書籍を優先的に購入する。
- ・ 文学的な小説などは優先的に購入する。
- ・ 公俗に反するような書籍は購入しない。
- ・ 学生にとって好ましくない内容の書籍、学校の図書館に設置するには相応しくないと判断される書籍は購入しない。

上記の基準以外で判断しにくい書籍に関しては、外部の図書館の状況や外部識者の意見をもとに図書館長が判断する。

### 【選書例】

- ・ 漫画△ ライトノベル× バンドスコア× イメージイラスト集×

## 平成26年度『読書感想文コンクール』表彰式



校長先生を囲んで記念撮影

平成26年12月17日、校長室において平成26年度読書感想文コンクール表彰式が行われました。今回の読書感想文コンクールでは下記の4名が入賞し、京兼校長より賞状並びに副賞が授与されました。

最優秀賞	機械工学科	1年	渡部 桂太朗
優秀賞	都市システム工学科	3年	矢尾田 貴大
優良賞	建築学科	2年	一色 智仁
特別賞	機械工学科	4年	谷 皓仁

## 平成26年度『読書感想文コンクール』入賞作品

### 「宇宙への夢」

最優秀賞 機械工学科1年 渡部 桂太郎

「下町ロケット」の主人公、佃航平は宇宙科学開発機構の研究者であった。しかし、佃が開発したエンジンを搭載したロケットは、エンジンの動作不良により、打ち上げ失敗に終わる。一百億円以上の損害。佃は周りの圧力により研究者の道を諦め、家業の佃製鉄所を継ぐことになった。だが、中小企業の社長となった佃に、さらなる試練が次々と襲いかかる。結果、資金繰りに窮し、佃製鉄所は倒産の危機に瀕することとなる。



僕の現在の将来の夢は、JAXA（宇宙航空研究開発機構）に入社し、人工衛星などを開発することだ。佃と同じく、自分が作ったモノを宇宙に飛ばしたいからである。ただ、この本を読んで、自分が目指している職業は失敗するリスクが大きいということを感じた。正直、少し怖くなった。もしかすると、佃と同じように失敗する可能性もあるのだ。

その後追い詰められた佃に、国産ロケットを生産する巨大企業・帝国重工が、佃製鉄所が所有している特許技術を買わせてくれないか、という要求をしてくる。それは、ロケットのエンジンに必要な不可欠な部品の特許技術で、帝国重工は佃製鉄所に特許取得で先を越されたからである。この特許を売れば、佃製鉄所は経営の危機から救われる。しかし、特許を売らずに、佃製鉄所で作った部品を帝国重工に供給する方法もある。そうすれば、自分が作ったエンジンでロケットを飛ばすという、一度叶わなかった夢を叶えるチャンスが生まれる。一金か夢—特許を売れば、ノーリスクで儲かることができる。対して、部品を供給する方法は、失敗したときのリスクが大きい。失敗すれば元も子もないのだ。さらに、佃にとって以前の打ち上げ失敗は、トラウマである。この二者択一の場面で佃は、最終的に夢の方を選んだ。なぜ、佃は恐怖に打ち勝ち、夢の方を選ぶことができたのだろうか。

僕は、小学生の時にいった、野口宇宙飛行士の講演会のことを思い出した。

彼の人生初の宇宙への旅は、とてつもない恐怖との戦いだった。自分の一つ前に宇宙へ行った飛行士たち全員が、帰還時にスペースシャトルの空中分解が原因で、命を落としたのだった。有人飛行の失敗は、多額の損害だけでは済まないのだ。死の恐怖との戦い。それでも彼は、「宇宙へ行く」という小さい頃からの夢を叶えるために、宇宙へ飛び立ったのだ。さらに宇宙飛行士の給料は命と引き換えにするような額ではない。佃も然り、なぜそこまでリスクを背負ってでも、夢を叶えようとするのか。その答えは、僕が野口宇宙飛行士へ聞いた、質問の答えの中にあることに気付いた。

「野口さんにとって宇宙とはどんな場所ですか？」

「挑戦しがいのあるフロンティアです。」

彼の、宇宙への好奇心、探求心、そして夢を叶えるためのチャレンジ精神が、恐怖に打ち勝ったのだ。

また、「下町ロケット」では、佃が次のたとえ話をしている。

「俺はな、仕事っていうのは、二階建ての家みたいなもんだと思う。一階部分は飯を食うためだ。必要な金を稼ぎ生活していくために働く。だけど、それじゃあ窮屈だ。だから、仕事には夢がなきゃならないと思う。それが二階部分だ。」

仕事の価値というのは、二階部分—つまり夢があるかで決まると思った。

—僕も宇宙へ挑戦したい。

どんな困難があっても、最後まで諦めなければ夢は叶うはずだ。野口宇宙飛行士は憧れの宇宙へ行くことができた。佃は、二度目の挑戦でついにロケットを宇宙まで飛ばすことができた。

宇宙を目指すのには、とてつもないリスクがある。しかし、失敗の恐怖を乗り越え、大気圏を抜けた先には、無限の可能性を秘めた、夢の世界が広がっているのだ。

（『下町ロケット』／池井戸 潤著 小学館文庫 2013年）



「re 夏の地図」

優秀賞 都市システム工学科3年 矢尾田 貴大

私が八十歳まで生きるとすると、私は人生の五分の一以上を既に浪費してしまったことになる。十三年ヴァイオリンを弾いている友人がいる。情報オリンピックの日本代表を目指す後輩がいる。だが私には、何もない。中学生の頃は、それが当たり前だと思っていた。殆どの人は私と同じように、何もない人生を生きるのだと。何かに必死に打ち込めるのはほんの一握りだけの幸せな人で、私はそんな人間ではないとずっと思い込んでいた。



だが、高専に入って知った。多くの人は何かに必死に打ち込み、あるときは喜び、あるときは打ち拉がれ、そうして凸凹の人生を生きてゆく。私の目には何もない人生に見えても、彼女たちは見えないところでそれぞれの人生を生きている。それに比べて私の人生はまるで鉄道に乗っているかのようだ。何もしなくても、終点まで連れて行ってくれる。

物語の中で、ある少女は自らの人生を振り返り「十六にして余生だ」と言った。だが、私は思うのだ。余生だ、そう思えるのならそれまでの人生はとても充実していたのだろう。だからこそ、余生であることを悲観するのではないか。いずれにしても、ある地点では充実していた彼女の人生を、羨ましい。そう思ったことを私は否定しない。

別の少女は、自らの境遇を洗濯物に例えた。洗ったあとの洗濯物が入っている籠に入れられた汚れた洗濯物は、そこで肩身を狭くして、籠から出される日をずっと待ち続けるしかないのだろうか。そもそも、貴女は本当に汚れた洗濯物だったの？

幽霊が見える少女がいた。春が嫌いな少女がいた。自分の形を知りたい少女がいた。少しひねくれた少女たちが、だけれども真っ直ぐに自分と向き合い、そして克服する。この物語は私に、なにもないと思っていた私すらも、持っている人であることを教えてくれた。持っている人には持たない人の気持ちはわからない。その言葉に共感して、『はじめから与えられている自分の幸運に気づかない子を横目で見ながら、私自身もそうだったことをようやく知った』。

物語を読み進める中で、思い出したことがある。私にもずっと打ち込んできた、そう表現していいのかわからないけれど、小学校の頃から大好きな事があるということだ。それは、みんなで歌をうたうこと。一人ではなく、みんなで。

決して上手ではない。中学校に合唱部はなかったから音楽の授業でうたっただけだし、高専の合唱団でだって後輩のほうが上手にうたう。けれど、私には何もないなんて嘘だ。この物語を読んで、私はそんな風に思うことができた。少なくとも私は、うたうことの楽しさを誰よりもよく知っている。

doの音で始まった物語はsiの音で一度幕を閉じる。2つの音で主人公となった御木本玲。それぞれの音で主人公となった少女たち。音はdoからsiの七つだけではない。シャープやフラットを含めると十二、それ以外にも実は無限に音は存在する。そして、同じように私たちの物語も無限に、一人ひとりに自分だけの物語が存在するのだろう。

この夏、私は東京で二週間のインターンシップに参加した。凸凹の人生は待っていても来ない。だから、自分から作ることに決めた。用意された道を見捨て、初めて自分で地図を作りながら歩いてみた。この本を読んでいなければ、歩み出せなかっただろう。五分の一を浪費したのではない、まだ五分の四も残っているんだ。物語に登場した六人の少女たちが教えてくれた。私の人生は、これから始まってゆくのだと。

(『よろこびの歌』／宮下 奈都著 実業之日本社 2012年)

「異邦人を読んで」

優良賞 建築学科2年 一色 智仁

この本はムルソーという変わった青年が主人公です。はじめに彼の特徴をいくつか挙げたいと思います。

まず、彼は正直である、ということが言えます。ぼくたちは日々の生活の中で嘘をつきます。それは、周りに気を使って思ってもないことを言ったり、今やらなければならないことのために欲望を押し殺したりなど、人が社会で生活するために必要な嘘だともいえます。しかし、ムルソーは周りに対しても自分に対してもまったく嘘をつきません。



次に、彼はほとんどのものに興味を示さない、ということが言えます。たとえば、彼は上司からパリ移住の昇進話を持ちかけられても断ります。彼は富や名誉にも興味がなかったのです。恋人から自分と結婚したいかと聞かれても、それはどっちでもいいことだが君が希望するのならならしてもいい、と答えました。彼は愛にも興味がなかったのです。そして、彼は友人の喧嘩に巻き込まれた際に殺人を犯してしまいます。彼は他人の死にも興味がなかったのです。彼はこうした一切のことを、どうでもいいことだ、と言って深く考えません。これはぼくたちから見ると考えられないことです。彼は裁判で、社会の異邦人として死刑の判決を受けます。

死刑を言い渡された後、彼は初めて興味を持つものを見つけます。それは「死」についてです。おそらく、彼は最初からそれにしか興味がなかったのでしょう。死はすべての人がいつかは直面する課題です。しかし、ぼくたちが日々の生活の中で死を意識することはほとんどありません。次から次へとやってくる大量の課題がそれについて考えることを忘れさせるからです。しかし、ある日突然、医者からあるいは裁判官から死の宣告を受ける時が必ずやってきます。人はその時、死とはなんなのか、なぜ自分が死ななければならないのか、答えのない問いを突き付けられます。その人はひどく心を乱し、人生に絶望するでしょう。そんな時、人は人生に意味を与えてくれるもの、夢や愛や神を求めるのです。それらなしに、ただ死を見つめながら生きていける人は少ないでしょう。

しかし、彼は人生に意味を与えてくれるもの、死の恐怖を紛らしてくれるものを拒否します。彼は母の死の際涙を流しませんでした。それは彼が、誰も母の死を悲しむ権利はない、と考えていたからです。彼にとって死は他人のものではありませんでした。それは個人的な問題です。だから彼は人生の意味を与えられることを拒否し、自分の力で死と向き合うのです。

それは恐ろしく苦しいものでした。最初、彼は死から逃れることばかり考えていました。

彼は死に支配されていたのです。しかし、彼はやがて母がよく口にしていた言葉を思い出します。それは、人に慣れてしまわないものはない、という言葉です。彼はいつの間にか、死に真正面から向かい合う状況にさえも慣れてしまいました。

そんな時、司祭が彼のもとを訪ねます。司祭は死に恐怖しているだろう死刑囚に神の救いを与えにやってきたのです。しかし、彼は司祭に向かって、君は死人のようだ、と言いました。ムルソーは何ものも信じていませんでした。信じているとしたら、自分が今生きていることだけだったでしょう。ぼくたちは夢や愛や神など人生に意味を与えてくれるものを信じている一方で、それらに支配されているともいえます。たとえば、夢が破れたときや愛する人を失った時など、それらを信じてことができなくなったとき、生きている意味がない、と言って簡単に自殺を考えていないでしょうか。こうした生き方はムルソーには死人のように見えたのです。彼はぼくたちに、人生に意味がないのを知ることは到達点ではない、出発点なのだ、ということを教えてくれます。彼は死を見つめた結果、人生に意味がないこと知りました。しかし、それを知ったうえで生きることを決めるのです。

そして彼は、自分が幸せである、と確信します。彼が手にした幸せはおそらく「ただ生きる」ことの幸せだったと思います。彼は世界の美しさと心臓の音だけを感じながら、この世でおそらく最も確実な幸せを手にして、死刑の日を待ち続けるのです。

『異邦人』／カミュ著 新潮文庫刊 1996年

「博士の愛した数式」

特別賞 機械工学科4年 谷 皓仁

ある日、弟に完全数について聞かれた。完全数とは、その数の約数の総和がその数と等しくなる数のことを指す。たとえば、二十八などである。その性質から計算してみると、二の累乗とメルセンヌ素数との積であるらしい。さらに知りたいと思った私は、彼になぜ完全数を知っているかを問うた。すると、この本を読んで知ったとのことだった。



この話は、事故で記憶が八十分しか持たない元数学博士と家政婦である「私」とその息子との三人で話が進められていく。この博士は、「私」が訪れて早々靴のサイズを聞いて四の階乗と言ったり、「私」の誕生日を聞いて博士の時計の裏に刻まれた二八四と友愛数であると言ったりなど、数字を身近に感じている人なのだと思う。確かに私たちの周りには数字があふれている。自分自身だけで考えてみても身長や体重など多くの数字が存在する。これらを単に長さや重さを表す数字とだけでとらえるのではないところが素晴らしいと思った。「私」もほかに友愛数がないかを探す途中にこの二十八という数の性質を発見した。

また、博士は子供をととても大事な存在だと思っており、彼女が家政婦として来る際に、子供を放っておいてはならないということで連れてくるよう命じたのは彼であった。そしてこの息子にルートという愛称を授け、自分のしたいことそっちのけでルートの算数の宿題を手伝った。夕食も一緒にとるようになった。その時にもルートが楽しく食事ができるようにと、よくルートに話しかけた。博士が阪神の江夏のファンであることなどである。この時の博士は、年少の者を慈しむ保護者の鏡だと思った。また、彼はかつて幼いころに両親をなくしているため、自分と同じようなさみしい思いをする子供を少しでも少なくしたいと思っているのだと思う。ここでも凶らずしてか江夏の背番号は二十八だった。そして、そんな博士と接して「私」とルートは、もう引退している江夏が現役であるようにふるまうこと、「もうその話は聞きました」と決して言わないことを決意した。

ある日のこと、博士を初めての野球観戦に連れて行ったあと、博士が熱で倒れてしまう。その時に泊まり込みで看病したため、七時に帰宅するという契約を違反したとして雇い主である未亡人に解雇されてしまう。そのあと、ルートが一人で博士のところに遊びに行くと、「私」が未亡人に呼び出されてどういうつもりなのかと問いただされるところに至る。

その時に、その言い合いを収めたのは博士の一つの数式だった。オイラーの式として有名な式で、四つの別々の要素を演算すると結果がゼロになるというもので、美しい式とも呼ばれる。私が察するに「私」、博士、ルート、未亡人の四人をうまく調和させたものであると思う。それが美しかったからかその裏の意味を悟ったからかその言い合いは終わり、さらに博士の家政婦として呼び戻される。

最後に、博士は記憶を八十分持たせることもできなくなり施設に入るが、彼はその施設でルートにもらった江夏のプレミアムカードをぶら下げていた。ここでもやはり江夏である。博士と「私」とルートは「数」奇なものでつながっていた。記憶がなくてもなお完全なものとしてつながり続けた。

完全数を知ろうとして読み始めたが結局詳しく知ることはできなかった。しかし、身近に存在する数への興味がわいた。これからただの数値で終わらせずに、何かそこに特別なことを見出していきたいと思う。

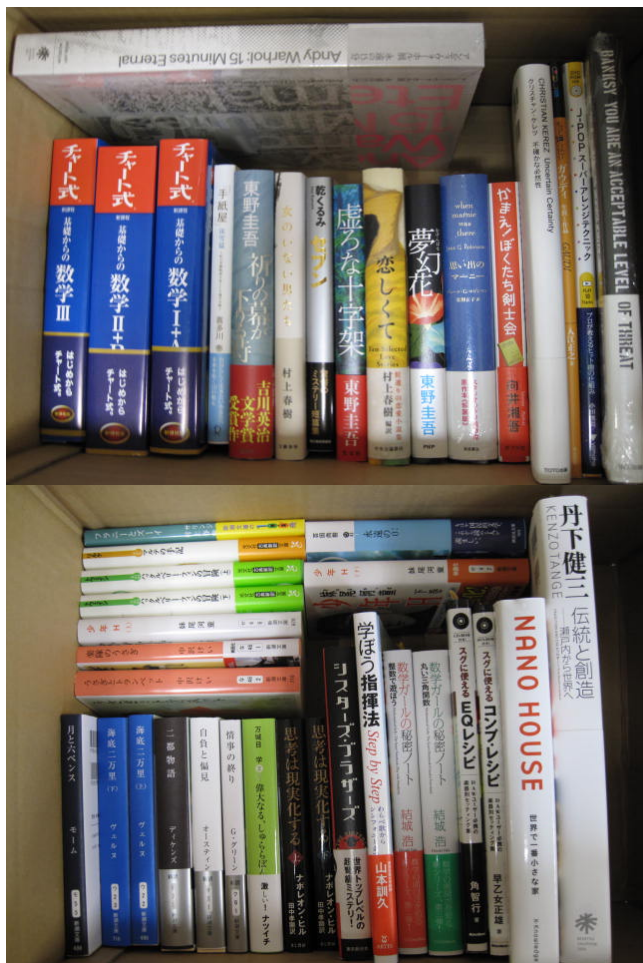
(『博士の愛した数式』／小川 洋子著 新潮文庫刊 2005年)

## ブックハンティング

昨年度に引き続き、試行的にブックハンティングを行うこととなりました。ブックハンティングとは書店に直接出向いて、学生の皆さんの視点で本を選び購入するというイベントです。購入した書籍は学校の図書館に開架します。いつもは図書館で希望図書を注文する機会しかありませんが、ブックハンティングでは実際手にとって他と比べながら本を選ぶことができます。学年学科を越えた学生の交流の場として楽しい時間を過ごす予定で

実施日時：平成26年7月5日（土）13：00～15：00  
実施場所：神戸三宮ジュンク堂書店  
参加人数：学生4名（+図書館長・事務職員）

7月5日（土）、三宮のジュンク堂書店にて2度目のブックハンティングを実施しました。参加学生は4名で、40冊ほどの書籍を店頭選書しました。学生たちは、コンピュータやプログラミング関係、機械関係の書籍はもちろんのこと、語学参考書や進路対策、最近の流行の小説に至るまで幅広い書籍を選んでいました。書籍が図書館に納入されましたら、その本を選んだ学生に簡単なコメント入りの本紹介のポップを作成してもらいました。学生からの紹介文と共に選ばれた本を図書館に開架していますので、一度手に取ってご覧いただければと思います。



ブックハンティングで購入した書籍



## 平成26年度学生用推薦図書・雑誌

推薦図書コーナーに開架しています。(以下、抜粋)

誌名	請求記号	登録番号
<b>機械工学科推薦</b>		
スッキリわかる Java 入門 実践編	007.64.N	105013
実際の設計〈第4巻〉こうして決めた	531.9.H	105006
設計者に必要な材料の基礎知識	531.2.J	105011
大学院 材料力学入学試験問題集 2014	132	DVD132
Autodesk AutoCAD Mechanical 2014 公式トレーニングガイド	531.9.O	105004
「日経ものづくり」	雑誌	
<b>電気情報工学科推薦</b>		
自宅で楽しむ発電 身近な材料から電気を作ろう	543.0.N	105016
例題演習 電子回路〈アナログ編〉	549.3.O	105018
電気機器工学 1	542.0.D	105019
「OHM」	雑誌	
「トランジスタ技術」	雑誌	
「日経Linux」	雑誌	
<b>都市システム工学科推薦</b>		
道路橋示方書 (I 共通編, IV 下部構造編)・同解説	515.0.N	105052
風景学 -風景と景観をめぐる歴史と現在-	290.13.N	105045
(環境・都市システム系 教科書シリーズ 19) 建設システム計画	510.9.O	105078
鋼構造設計学の基礎	524.6.O	105021
鋼構造物の設計入門	524.6.D	105020
斜面崩壊対策技術	511.34.M	105022
<b>建築学科推薦</b>		
藤森照信の茶室学—日本の極小空間の謎	521.86.F	105031
最高の建築写真の撮り方・仕上げ方	746.0.H	105027
実測図で読む ガウディの建築	523.36.T	105044
ようこそ建築学科へ! 建築的・学生生活のススメ	520.7.I	105037
建築を、ひらく	525.1.G	105033
デザインする思考力	336.2.T	105048
<b>一般科目推薦</b>		
線形代数 LIBRARY 工学基礎&高専 TEXT T1	411.3.K	104996
線形代数問題集 LIBRARY 工学基礎&高専 TEXT E1	411.3.K	104995
科学のとびら55 世界の化学企業	570.0.T	105001
科学者・技術者のための英語プレゼンテーション	407.0.R	407.0.R
英語で書く科学・技術論文	407.0.T	105000
「CNN English Express」	雑誌	

全 97 冊、雑誌 8 種

詳しくは、図書館 HP (<http://www.akashi.ac.jp/lib/siryou/suisen14.htm>) をご覧ください。

## 利用ランキング 2013.10.1 - 2014.9.30

### —図書—

- ① 68回 「TOEIC テスト新公式問題集 Vol.5」
- ② 45回 「TOEIC テスト新公式問題集 Vol.4」
- ③ 30回 「システム英単語」
- ④ 28回 「TOEIC テスト新公式問題集 Vol.3」
- ⑤ 25回 「基礎物理学演習」
- ⑤ 25回 「新 TOEIC テスト「直前」模試 3 回分」
- ⑦ 24回 「新 TOEIC TEST 文法・語彙問題秒速解答法」
- ⑧ 23回 「TOEIC テスト公式プラクティス リスニング編」
- ⑨ 22回 「面接の達人 面接・エントリーシート問題集」
- ⑩ 20回 「演習力学」

### —雑誌—

- ①261回 「新建築」
- ②102回 「新建築,住宅特集」
- ③101回 「A+U」
- ④ 82回 「住宅建築」
- ⑤ 67回 「ディテール」
- ⑥ 50回 「建築知識」
- ⑦ 22回 「TOEIC Test プラス・マガジン」
- ⑧ 12回 「建築画報」
- ⑧ 12回 「スポーツイベントハンドボール」
- ⑩ 11回 「Newton」

### —DVD—

- ① 7回 「ダークナイト」
- ② 6回 「スター・ウォーズ エピソード1」
- ② 6回 「スター・ウォーズ エピソード2」
- ② 6回 「スター・ウォーズ エピソード3」

## 図書館利用状況 (平成21年度から平成25年度)

項目 / 年度			21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
年 間	入館者数	時間内	36,114	38,734	31,755	29,810	35,988
		時間外	8,318	7,132	6,714	9,874	10,194
		計	44,432	45,866	38,469	39,684	46,182
	AV ルーム	計	2,042	2,358	1,896	1,677	1,067
	貸出者数	計	4,185	4,103	3,649	4,072	3,667
	貸出冊数	計	7,754	7,666	7,014	7,271	6,987
	開館日数	年 間	283	292	290	288	291
一日平均	入館者数(時間内)		152	162	110	104	124
	入館者数(時間外)		36	30	23	41	43
	A V ルーム		7	8	7	6	8 (126日)
	貸出者数		15	14	13	14	13
	貸出冊数		27	26	24	25	24

【開館時間】 時間内：平日 8:30～17:00 時間外：平日 17:00～20:00 土曜日 10:00～16:30

※平成25年8月28日より、AVルームが撤去され、演習室4 (BIM・CALL)に変わりました。

※別途、新規にAVコーナー (6席) を設けております。

## 図書館利用案内

開館時間	
月～金曜日	8:30 - 20:00
土曜日	10:00 - 16:30
春・夏休み期間中	8:30 - 17:00
休館日	
日曜日・祝日 春・夏休み期間中の土曜日 年末・年始 12/26 - 1/5	

試験期間前・期間中の日曜（祝日）は土曜日と同じく開館しています。

	貸出冊数	貸出期間
通常	5冊	2週間
卒研	3冊	2ヶ月

卒研貸出は通常とは別に貸出ができます。  
対象者(学科4年生以上、専攻科生)

学科推薦図書・JABEE関連資料・留学生向図書・視聴覚資料・参考書など  
各コーナーに別置しています。

## 図書館内配置図

- ① JISハンドブック、雑誌バックナンバー
- ② SD選書、参考図書(専門科目)
- ③ 専門雑誌
- ④ 大谷文庫、近藤文庫
- ⑤ 視聴覚資料
- ⑥ 学科推薦図書、JABEEコーナー
- ⑦ ブックハンティングコーナー  
教員がすすめる100冊コーナー
- ⑧ 留学生コーナー

- ⑨ 人権図書、旅行本コーナー
- ⑩ 講談社現代新書
- ⑪ 中公新書、知的文庫、  
ブルーボックス、岩波ジュニア新書
- ⑫ 推薦文庫(古典新訳)、文庫本
- ⑬ TOEIC、多読、キャリア支援コーナー
- ⑭ 新着本コーナー
- ⑮ 一般雑誌
- ⑯ マンガ本コーナー
- ⑰ 岩波新書、岩波文庫、同時代ライブラリー

開架室に配架されている  
図書は分類番号順。  
南から5000～999



## 海外の図書館

### 図書館の楽しみ方

武田 字浦

今回、この記事を書くにあたって、出身校を含め、今まで訪れた大学などの図書館のことを振り返ってみました。ほとんどの大学の図書館は、国内外に関わらず、専門分野毎に建物が分かれており、工学系を学ぶ私たちがよく利用するのは、科学技術系の蔵書が充実している Science Library ということになります。

「図書館」というと、私語厳禁で飲食もできないという印象がありますが、海外では入り口にカフェがあり館内での飲食が可能な図書館もあります。また、アメリカの図書館では、本棚の近くにソファが置いてあり、ゆったりと読書を楽しめる空間が作られていました（写真 1 ここで寝ている人も見かけました…）。

そんな中、一番印象的だったのは、シンガポールにあるリパブリック・ポリテクの図書館です。ここの図書館は、館内にカフェやビリヤード台、グランドピアノまでが置いてありました（写真 2,3）。また、何層かにわけて様々な学習空間が作られているので（写真 4）、1人で静かな環境で勉強したい人、友達と一緒に勉強したい人、お茶を飲みながら勉強したい人、勉強の合間に休憩したい人など、利用する人たちの色々なニーズに応えられる環境が作られていました。

緊張と緩和、この絶妙なバランスで最高の集中力が得られると考えると、このリパブリック・ポリテクの図書館は、様々な工夫が詰まった面白い図書館だと感じました。



写真1 アイオワ大学の Science Library にて



写真2 リパブリック・ポリテクの図書館内のカフェ1



写真3 リパブリック・ポリテクの図書館内のカフェ2

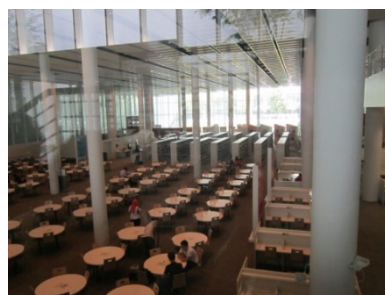


写真4 リパブリック・ポリテクの図書館

(たけだ なほ 都市システム工学科)

#### 【編集後記】

図書館報第50号をお届けします。お忙しい中、原稿をお寄せくださった皆様ありがとうございます。本号の各記事が読者や図書館の利用に役立てばと願っています。

明石工業高等専門学校図書館報 第50号 2015年1月発行

編集・発行 明石工業高等専門学校図書館 〒674-8501 明石市魚住町西岡 679-3 (078)946-6051